

カンキツ「不知火」の安定生産のための予備枝設定法

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

担当者 :平山 秀文

研究のねらい

「不知火」は結果樹齢の経過とともに樹勢が弱くなり、優れた結果母枝が少なく隔年結果を起こし易い。そこで有葉蕾、春夏季の切り返しせん定、果梗枝による予備枝等の設定により、「不知火」の安定生産に適した結果母枝の確保技術を確立する。

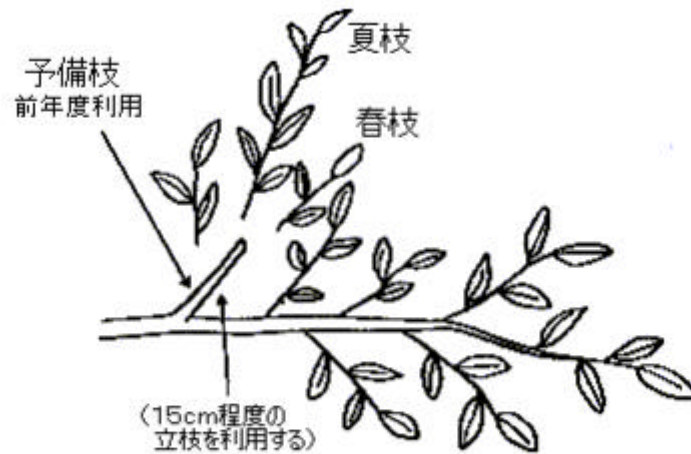
研究の成果

- 1 春季の2年生枝(10～15cm)を利用した予備枝設定は、新梢の発生も多く、優れた結果母枝が確保され、翌年の着花も多かった。
- 2 夏季の2年生枝(10～15cm)を利用した予備枝設定は、7月上中旬に2年生枝まで春枝を剪除し設定することにより、優れた結果母枝が確保され、安定生産が図られた。

以上の結果から、「不知火」の安定生産を図るための結果母枝確保技術として、春夏季の2年生枝を利用した予備枝設定は有効である。

普及上の留意点

- 1 2年生枝を利用した予備枝設定は、着葉春枝の基部まで剪除した予備枝にし、日当たりの良い部位にある斜向枝、又は立枝を利用する。
- 2 発生する新梢は、1節当たり1本に整理して新梢伸長を促す。
- 3 予備枝設定本数は、1m³当たり2～3本程度とする。
- 4 果梗枝を利用した予備枝設定は、枝径が6mm以上でなければ、優れた結果母枝の確保は望めない。
- 5 有葉花摘蕾による結果母枝確保技術は、翌年の着花が少なく利用が困難である。



2年生枝を利用した予備枝剪定
(剪定時を7月に設定)

図1 予備枝の作り方

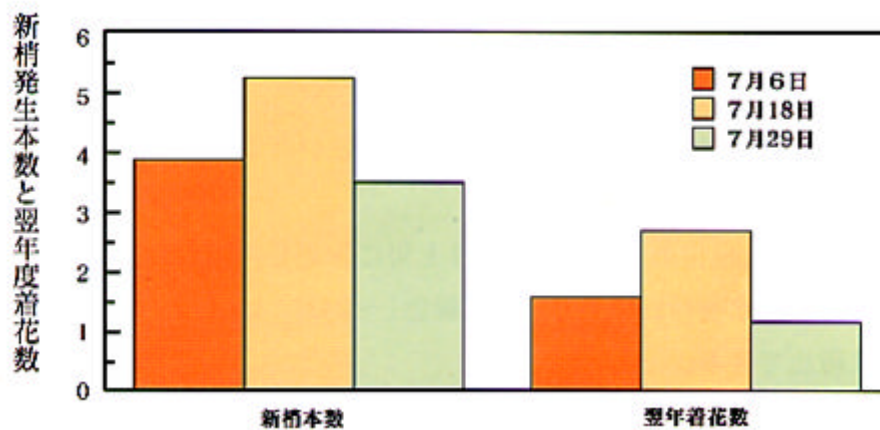


図2 夏期の予備枝設定時期と当年の新梢発生本数及び翌年度着果数
(新梢本数は予備枝1本当たり、翌年度着果数は新梢1本当たり)

表1 春期及び夏期の予備枝設定と新梢発生本数及び翌年の着果数

予備枝 設定時 期	予備枝 長(cm)	節数 (節)	新梢発 生本数 (本)	平均		着花数 (花)	有葉花			
				新梢長 (cm)	節数 (節)		総状花 (花)	単花 (花)	総状花 (花)	単花 (花)
春期	15.4	6	6.2	9.2	5.7	7.7	2.2	5.4	0	0.1
秋期	174	7	5.5	16.0	10.4	5.6	0	5.4	0	0.2

(注) 予備枝設定は2年生枝。新梢発生本数、着花数は予備枝1本当たり